



核物質管理センター ニュース

NUCLEAR MATERIAL CONTROL CENTER NEWS

「国際原子力機関（IAEA）保障措置の挑戦」の概要

核物質管理センター 企画室

IAEAの天野事務局長が2019年4月5日に米国の戦略国際問題研究センター¹で行った講演が、IAEAのウェブサイトに掲載されました²。

IAEA保障措置の強化・効率化に向けたIAEAのこれまでの取組と現在直面している課題について紹介されていることから、その概要をまとめます。なお、原文にはない小見出しをつけ、参考図等を挿入したことをお断りします。また、挿入した図やグラフは参考1を除き全てIAEAがウェブサイトで公表しているものです。

1. IAEAの役割

IAEAは、60年以上にわたり、国家が核兵器を開発していないことへの検認を行うことによって、国際の平和と安全に対し独自の貢献をなしてきた。現在、IAEAは182の国³において保障措置を実施している。

熟練度の高い数百人の査察官と分析スタッフによって保障措置が実施されており、こうした高度なレベルの技術に裏打ちされてIAEAの保障措置

結論が導出され、年次報告される。

2. IAEA保障措置の進展における最重要事項 —追加議定書—

保障措置の歴史において最も重要な進化のひとつとされるのが、追加議定書（AP⁴）である。新たな法的手段として、国がIAEAとの間に締結し

⁴ AP : Additional Protocol。そのモデル議定書（原題：Model Protocol Additional To The Agreement(s) Between State(s) And The International Atomic

¹ Center for Strategic and International Studies (CSIS)。1962年にジョージタウン大学が設立した民間シンクタンクで、米国のワシントンに本部を置く。一般財団法人国際問題研究所の軍縮・不拡散促進センターのウェブサイトの「関連リンク」にもリストアップされている。

² <https://www.iaea.org/newscenter/statements/challenges-in-nuclear-verification>

³ IAEAのウェブサイトから確認できる。(Status List, Conclusion of Safeguards Agreements, Additional Protocols and Small Quantities Protocols, as of 24 September 2018)

目次

● 「国際原子力機関（IAEA）保障措置の挑戦」の概要	1
● 安全保障理事会における国際原子力機関（IAEA）事務局長講演—2020年核不拡散条約（NPT）運用検討会議に向けての条約強化方策について—	9
● News Memo	12
● NMCCのページ	14
● 動静	16

動 静*

2019.4.25～ 2020年核不拡散条約（NPT）運用検討会
5.10 議第3回準備委員会（米国、ニューヨーク）
2019.5.6～10 IAEA理事会/事業計画・予算委員会
（オーストリア、ウィーン）
2019.6.10～14 IAEA理事会（オーストリア、ウィーン）
2019.6.17～18 CTBT準備委員会第52会期（オースト
リア、ウィーン）
2019.6.24～28 使用済燃料管理に関する国際会議（オース
トリア、ウィーン）

2019.9.9～13 IAEA理事会（オーストリア、ウィーン）
2019.9.16～20 第63回IAEA総会（オーストリア、
ウィーン）
2019.9.23 IAEA理事会（オーストリア、ウィーン）
2019.11.18～22 IAEA理事会（オーストリア、ウィーン）
2019.11.25～27 CTBT準備委員会第53会期（オースト
リア、ウィーン）
2020.2.10～14 IAEA第3回核セキュリティに関する閣
僚級会議（オーストリア、ウィーン）

*ここに掲載している会合等は必ずしも全てが公開参加型とは限らないことをお断りします。また、2か月先までのスケジュールについて網かけ表示しています。



ご意見やご質問をお寄せ下さい。掲載記事として反映し、内容の拡充を図りたいと存じます。



2019年5月、新しい年号、「令和」が始まりました。「令」という文字の通り、素晴らしい年となりますように。

さて、5月といえば新緑の萌える季節です。「あおもみじ」という言葉があると知り、手持ちの『季語辞典』を繙いてみたところ、「青楓（あおかえで）」はありましたが、「あおもみじ」は季語として定義されていないようでした。「もみじ（紅葉）」というと秋の風情が連想されます。一方、私たちの暮らしの中で「もみじのような手」というと子どもの小さな手が思い出されます。「もみじ」という言葉にも若々しい、新鮮な感覚が込められているのかもしれませんが。「あおもみじ」は京都の人たちが使っている言葉のようでしたが、さすが豊かな語感をはぐくんできた町ならではのことでしょう。

桜や桃の季節が過ぎた頃には、道端の生垣の中に躑躅の鮮やかな赤い花やそれとは対照的に遠慮



京都の東福寺にて新緑の庭を臨む

がちに咲く山吹の黄色や白の花が目にとまるようになります。そのほか薔薇、藤、鈴蘭、ハナミズキなど名前を挙げたらきりがありません。まさしく百花繚乱です。

けれども、そうした華やかさと違い、新緑の美しさは葉の一枚一枚に宿った新しい生命の息吹と言えるような気がします。葉が芽吹いて間もない木々を仰ぎ、若葉の重なり具合によって濃い緑、淡い緑の葉から透けて見える光を見ては、その清らかな美しさに包まれるような気持ちになります。

世界に目を転じると、先が見通せないような状況にありますが、様々な議論を尽くして進むべき道を見出してほしいとの思いを強くしています。（企）